

定例研究会のご案内

(社) 東洋音楽学会関西支部第 183 回定例研究会

と き : 1997年4月19日(土) ①14:00~17:00

と ころ : 大阪教育大学天王寺キャンパス本館第13教室 (別紙参照)

☎ 〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88 ☎ 06-775-6611

交 通 : ① JR大阪環状線「寺田町」駅下車 南出口を西へ徒歩約5分

② JR・地下鉄「天王寺」駅、近鉄南大阪線「阿倍野橋」駅下車東へ徒歩約10分

14:00~15:00 連続講座 「伝承」を考えるーその1

能の音楽が伝承される場

藤田隆剛

15:15~16:00 連続講座 「伝承」を考えるーその2

芸の伝承ー踊り手の親子に見られる舞踊の伝承を中心に

福岡まどか

16:15~17:00 修士論文発表 (京都大学大学院人間・環境学研究科修士論文)

古代の天皇と芸能ー見る天皇・演奏する天皇ー

中川尚子

(社) 東洋音楽学会関西支部第 184 回定例研究会

と き : 1997年6月14日(土) ①15:50~18:00 (見学受付13:00~)

(当日は御田植神事があり、見学の便宜のため開始時間が通常より遅くなります)

と ころ : 住吉大社記念館 (別紙参照)

☎ 〒558 大阪市住吉区住吉2-9-89 ☎ 06-672-0753

交 通 : ①南海本線「住吉大社」駅下車徒歩約3分

②南海高野線「住吉東」駅下車徒歩約5分

③阪堺電軌阪堺線・上町線「住吉」駅下車すぐ

15:50~16:35 解説ー住吉大社「御田植神事」について

井野よし子

16:50~18:00 特別講演・演奏

座頭琵琶語りにおけるテキスト性と

ヒュー デ フェランティ (コーネル大学)

トランスミッション

コメンテーター 小西潤子

● 第184回例会当日は住吉大社で御田植神事(重要無形民俗文化財指定)が行われます。住吉大社の格別のご厚意により会場を提供していただきましたので、御田植を見学してから例会に参加することができます。非会員の方の参加も歓迎いたします。なお御田植見学は13:00より受付いたします。詳細につきましては別紙をご覧ください。

今期の連続講座は—「伝承」を考える—というテーマで進めることとなりました。この講座では「伝承」ということばを、「音楽を伝え、受け取るプロセス」と捉え、「トランスミッションtransmission」と同じ意味で使いたいと思います。

「伝承」をあつかった古典的論文“Homer and Gregory: The Transmission of Epic Poetry and Plainchant,” The Musical Quarterly 60(3), 1974. において、Leo Treitler氏は「音楽がどのように受け渡されるか (transmit) を理解することは、音楽そのものを理解することと同じだ」と述べています。また、「伝承」のやりかたを知ることは、演奏に参加する能力 (competence) について知るための、近道であるともいえましょう。

「伝承」の場には、初心者を中心とした参加に巻き込むかたちから、一対一でたつきこむかたちまであります。そういう広がりの中で、楽譜や音楽用語はどのような位置におかれ、どのような機能をはたすのか、正確に再現することと変形させていくこととの関係はどのように把握されるのか、変形させていくことが創造とどうつながるのか、などといった問題をめぐって、実際の演奏 (パフォーマンス) も交えつつ、会を進めていきたいと思っています。会員の皆様の活発な参加と議論をお願いいたします。

定例研究会記録

> 第182回定例研究会研究発表 要旨 <

侗族の琵琶歌に見る文化化の機能—中国湖南省通道侗族自治县の場合—

薛麗軍 (大阪大学)

「文化化 enculturation」は社会学や文化人類学の用語としての「社会化 socialization」とほぼ同じ意味の用語である。ただし、『社会学事典』(弘文堂 1994)で「文化システムとの関わりでは、社会化は、人間が文化を内面化して身につけること、すなわち文化化 (enculturation) として進行する。とりわけその文化の価値を内面化し、道徳を形成する道徳的社会化の過程が重要である。」と述べているように、社会化の方がやや広い概念で、文化的な事柄を強調するとき「文化化」という。すなわち、人間がある社会のメンバーとして成長していく段階で、その社会の中での風俗習慣を身につけていくことが「文化化」といえる。

侗族はいわゆる無文字社会であるため、その民族文化を伝承し、次世代を教育していくという問題は、主に口頭伝承によって行われてきた。その伝承の方法として、歌唱手段を用いる方が単なる言語手段を用いるよりもはるかに印象的であり、音楽を媒体とする教育は、青年にとっても最適の手段として今日もなお機能している。侗族の琵琶歌には、伝統的な儀式に用いるもののほか、恋愛、結婚、生活、人生、民族の英雄説話、伝統的な道徳観などを歌うものがあり、それらの内容は教育的である。侗族の琵琶演奏家は、伝統的な歌詞や、その時々々の社会の要求に応じた内容で自ら作った歌詞により、青年が青春を大切に、生活を愛し、熱心に労働するよう歌いあげる。

このような伝統文化の継承方法は、侗族にかなり古くから存在しており、とくに琵琶歌の多くに教育機

能がみられる。佯族琵琶歌はまさに「文化化」の機能を持ち、自民族の文化を継続的に維持していく上で重要な手段であると考えることができる。

▶第183回定例研究会「連続講座」 要旨<

能の音楽が伝承される場

藤田隆則

能の音楽においては、「形を変えずにそのまま保存する」ということが、実践における一つの大きなゴールとなっている。したがって、音楽を「即興」的に「変化」させたり、「変形」させたりすることが、事実としておこり、おこなわれているとしても、伝承者たちはそれをそのように言い表したりすることはない。われわれに対してはたんに「教えられた通りにやっている」と答えることがおおい。程度のちがいはあるにせよ、能以外の日本の古典音楽においても、同じようなディスコースがみられる。

これまで、われわれ研究者は「教えられた通りにやっている」というディスコースをまったく無視してきた。あるいは「伝承者は自らの実践を権威づけるために音楽が変化しているという事実を隠している」というように、そのディスコースを否定的にとらえてきた。したがって「変えずに保存する」というゴールに連動する実践のありかた自体も、まともに取り扱われてこなかったのである。

ここでは、「変えずに保存する」というゴールに連動した、能の音楽の学習の場に焦点をあてる。論点は二つある。まず一つ目は、叩き込み・反復によるノーティションの身体化が強調されているという点。一般にノーティションは、解釈される対象として演奏者の外部に、その位置を占める。しかし能の世界では暗記が重要視され、さらに古楽譜の解説といった営みも存在しない。そして二つ目に、システム・規則・規範などといった抽象度の高い応用可能な知識は、学習するものの自己発見にゆだねられ、公的な知識としては流通しない（あるいは秘伝化する）という特徴がある。

発表においては、稽古の場における書かれた楽譜や録音機器の扱われ方、言語の使用などにふれながら、能の音楽の伝承者たちが、あたかも変化とは無縁であるかのようなトランスミッションの世界に生きていることを具体的にしめしたい。

芸の伝承—踊り手の親子に見られる舞踊の伝承を中心に

福岡まどか

この研究で対象とするのは、インドネシア・西ジャワのチルボンに伝わる仮面舞踊である。発表の目的は、母から娘へと舞踊の芸が伝承されるプロセスにおいて、いかなる変化が見られるのかを検討することにある。

特に娘の世代の踊り手は、1960年代後半に、西ジャワで創設された国立の芸術教育機関の教育内容からも強い影響を受けている。発表の中では、こうした芸術教育機関において重要視される舞踊の創作技法に焦点を当てて、芸の変化をたどっていきたい。

第一に、母親の踊り手の上演の分析を通して、トベン・チルボンの舞踊の構造上の特質を示す。また第二に、娘の踊り手の創作舞踊の分析を通して、創作技法の特質を考察する。

これらの分析から、世代間の伝承プロセスにおいて、近代的な芸術教育システムがどのような影響を及ぼしたのかを明らかにしたい。

1997年度定例研究会予定

第183回	1997年4月19日(土)	大阪教育大学天王寺キャンパス
第184回	1997年6月14日(土)	住吉大社記念館
第185回	1997年9月下旬(未定)	国立民族学博物館
第186回	1997年12月6日(土)	大谷大学 ※終了後懇親会を予定しています。
第187回	1998年2月14日(土)	大阪音楽大学K号館(水川記念館)

関西支部からのお知らせ

学会本部事務所の移転 学会事務局が移転しました。新事務所の住所・電話等は以下の通りです。なお振替番号や電子メールは従来通りです。

〒110 東京都台東区谷中 5-9-25 第2八光ハウス201号 (社) 東洋音楽学会

☎ 03-3823-5173 FAX 03-3823-5174 E LDT01776@niftyserve.or.jp

振替 東京 00160-6-55723

入会申込方法・住所等の変更について 入会ご希望の方は、郵便切手80円を同封し、上記の学会本部新事務所に入会申込用紙・入会案内をご請求下さい。なお入会には推薦者1名(本学会員)を必要とします。住所等の変更につきましても同事務所までお知らせ下さい。

定例研究会研究発表申込方法・支部だよりについて 定例研究会での発表等を常時募集しております。ただし申込多数の場合など、必ずしもご希望に添えないこともありますので、あらかじめご了承下さい。申込の際は、発表の種別(研究発表、調査報告、資料紹介、研究演奏など)、題目、使用機器、発表希望日、所属、氏名、連絡先を明記の上、下記宛にご送付下さい。また支部だよりへのご意見や自由な投稿もお待ちしております。

〒582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1 大阪教育大学 澤田篤子 TEL&FAX 0729-78-3703

お詫びと訂正 支部だより第27号で誤りがありました。お詫び申しあげますと共に、以下のように訂正してさせていただきますようお願い申し上げます。

1 ページ (社) 東洋音楽学会関西支部定例研究会 → (社) 東洋音楽学会関西支部第182回定例研究会

4 ページ 松永健 → 松永建 使用機帯気 → 使用機器

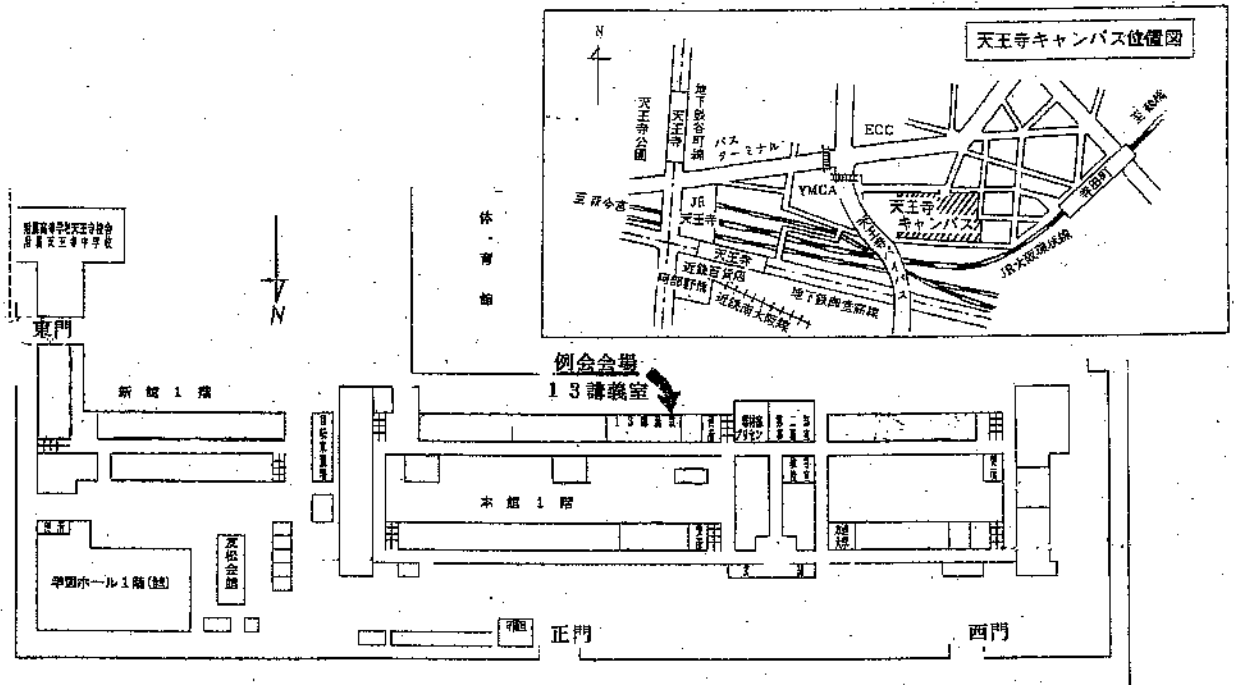
編集室より

5回にわたる特別講習会「ラバノーション入門」が第182回例会でひとまず終了いたしました。講師の大谷紀美子氏には、実演を伴った講習を長きにわたって賜り、ここに心より御礼申し上げます。第183回例会より新たなテーマで連続講座が始まります。また第184回例会は御田植神事見学ができます。おいしい住吉さんのお菓子も賞味できるようです。ふるってご参加ください。

第183・184 回定例研究会会場案内

第183回定例研究会 1997年4月19日(土) 14:00～17:00

*大阪教育大学天王寺キャンパス本館第13教室



第184回定例研究会 1997年6月14日(土) 15:50～18:00 御田植見学受付 13:00～

*住吉大社記念館

御田植を見学される方は御田前設置の受付の(社)東洋音楽学会専用受付にて受け付けます。荷物等は例會会場の記念館に置くことができますので、受付にてお申し出ください。

※なお非会員の方の例會参加は有料となります(資料費:500円)。

